

別紙:ご意見の内容及び市民協働推進課の考え方				
No.	質問区分	意見提出者	意見	市民協働推進課の考え方
1	Q1[「対話」の仕組みについて]	まち協	課題には、地域と宝塚市だけでは解決しないものがある。 たとえば、警察に係る課題については、個別に対応しなければならない。 すべての関係者が一つのテーブルで協議できればと望ましい。 また、1回の対話で解決できない課題も多い。 第2、第3の対話の場をどうするかを関係機関からも提案してほしい。	対話における、警察等の関係機関との連携につきましては、より効果的な連携を図っていけるよう、担当次長及び関係課と情報共有しながら取り組んでまいります。 また、ご意見の通り、具体的な取り組みの内容によっては、1回の対話で即座に解決につながらないものもあるかと存じますので、随時、担当次長にご相談ください。
2	Q1[「対話」の仕組みについて]	まち協	従来から対話シート及び推進シートは活用せず、様々な問題や課題(地域課題、懸案事項、依頼事項)があれば直接担当課に相談、申入れをしています。その方がスピーディに諸問題を解決改善の方向に導くことが出来ます。まち協の各部会長は関連事案の担当課との接点を持ち合わせており、直接交渉することにより問題提起や解決策への時間短縮が可能となります。市各部課との案件交渉、依頼事項についての内容については日頃から市民協働推進課及び担当次長にはフィードバックするように心がけています。 まち協活動の効率化を考えると書面を媒介とした方法より、効率的と思料します。 更には直接対話によりスピーディーに話が進むケースが多々あります。	「推進シート」は、あくまで地域ごとのまちづくり計画を推進していくための一つのツールです。貴会のように直接関係課との協働を進めていただく方法でも差し支えはございません。 ただ、仕組みをご活用いただくことで、地域と市が対話の中で確認し合えたことを「対話シート」に記録し、双方で共有することができます。記録を残していくことは、担当者(各まち協、市(市民協働推進課・各担当課))が交代した場合に円滑に引継ぎを行うことができ、地域と市の双方に大きなメリットであると考えています。必要に応じて、ご活用ください。
3	Q1[「対話」の仕組みについて]	まち協	この地域に住んでいない方々へ、この地域の方々の様々な思いを伝える事の難しさを痛感します。	市としても、「対話」の実施にあたっては、住んでいるからこそ分かる地域の方々の思いに触れながら、進めていきたいと考えており、互いの思いをより理解しあうためにも、地域と行政の「顔が見える」信頼関係の構築が大切であると考えています。 今後も協働の取組推進担当次長、地域担当職員が概ね月1回程度まち協に訪問し、まちづくり協議会の役員やその他活動者との交流を図り、「顔が見える」信頼関係の構築に努めるとともに、市民の生の声を聴くことで、市民ニーズや地域の現状を肌感覚で把握できるよう努めます。
4	Q1[「対話」の仕組みについて]	まち協	①対話として進めていくのか、直接担当課と調整していくのかの判断が不明瞭。 例えば、案件処理に係るのが単独課の場合は直接、それ以外是对話。不明な場合は担当次長の判断を基本とする。とか。 ②担当次長の負担が大きい。まち協に事務処理能力が不足している(出来る人が居ない)場合、担当次長が意見をまとめてシート案を提示するとすれば、とても大変な作業となる。 まち協側も、事務作業が出来ない為にシート提出を断念するような状況は本末転倒と思う。 担当次長とは別で事務が出来る人が必要となるのではないか。 ③そもそも市役所の各担当課の方は、このやり方がベストと考えているのか疑問を感じる。最近はいいや、シートなしでも大丈夫ですよ」との対応が多くなったような感じがする。	建設的な「対話」の実施に向けては、事前調整が重要となります。担当次長に対しては、まち協への事前ヒアリング・関係課の検討・関係課への説明等を行った上、内容によっては、対話内容の調整が望ましい場合や必ずしも仕組みに基づく「対話」が向いていない場合があるため、「対話」以外の方法も含めて事前調整を行うよう伝えております。関係課との対話の調整をはじめ、担当次長にお気軽にご相談ください。
5	Q2[「進捗管理」の仕組みについて]	まち協	進捗確認シートの項目が沢山ありますのでまちづくりにたずさわる上では必要ですが、住民の意識の浸透が大変難しいです。地域安全安心・地域環境整備・地域福祉・青少年育成と幅広くあります。	地域ごとのまちづくり計画は、市民の方自らが地域の現状や課題、ニーズを踏まえ、将来像を描き共有しながら、目標や具体的な取組等を取りまとめたいただいた計画です。 「具体的な取り組み」は、おおむね5年間で実行するものとしてとりまとめたいただいておりますが、令和7年度に、後期の5年間(令和8年度～令和12年度)に向けて、無理なく実行できる計画になっているかどうかという視点も含めて、具体的な取り組みを見直していただきました。
6	Q2[「進捗管理」の仕組みについて]	まち協	難しい話ですが、単なる「事務作業」で終われないのがコミュニティです。 時代の流れに合わせて簡略化、時短化するのは大事な事だと思います。 ただコミュニティは、そこへたどり着くために、わざわざ時間をかける必要がある組織です。 文章表現にしても、簡略化できない部分もあります。 そこを改めてご理解いただけたらと思います。	計画の推進は大切ですが、その事務負担によりかえってより良いまちづくりを阻害することのないよう、継続して考えるとともに、地域の皆様が少しでも意欲的に取り組んでいただけるような仕組みとなるよう、引き続き検討してまいります。
7	Q2[「進捗管理」の仕組みについて]	まち協	①シートが横長すぎて見づらい。 ②上部項目部分にロックをかけていただいている為、肝心の記述がほぼ見えない。 ③打ち合せや総会の際に印刷した物を配付するが、項目が多すぎてかなり字が小さくなる。 ④前年度の入力項目は表で繋げないで、今年度入力する項目部分に薄く表示させ、変更がある時に入力・変更してはどうか。	まちづくり計画の進捗確認シートについて、令和7年度は特に「進捗確認シート」と「後期計画策定シート」が1つのシートになっていたため横長になり、ご不便をおかけし申し訳ございません。いただいたご意見を参考に、令和8年度以降の進捗確認シートの改善に取り組んでまいります。
8	Q3[協働の取組推進担当次長の関わり方について]	まち協	現在のところ、非常によくかかわっていただいているので大変助かっております。	協働の取組推進担当次長の関わり方についてご評価いただき、ありがとうございます。 引き続き、担当次長と市民協働推進課で連携しながら取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。

別紙：ご意見の内容及び市民協働推進課の考え方				
No.	質問区分	意見提出者	意見	市民協働推進課の考え方
9	Q3【協働の取組推進担当次長の関わり方について】	まち協	担当次長さんが加わっていただき、市の行政全般の守備範囲が広がったように思います。	協働の取組推進担当次長の関わり方についてご評価いただき、ありがとうございます。 引き続き、担当次長と市民協働推進課で連携しながら取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。
10	Q3【協働の取組推進担当次長の関わり方について】	まち協	毎月の定例会にはほとんど出席していただいていますので、顔の見える信頼関係はできていると思います。 対話や進捗管理の場に出席していただいていますので、感謝しています。	協働の取組推進担当次長の関わり方についてご評価いただき、ありがとうございます。 引き続き、担当次長と市民協働推進課で連携しながら取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。
11	Q3【協働の取組推進担当次長の関わり方について】	まち協	担当次長には毎月の役員会を中心にまち協活動に関わって頂いております。 当まち協が抱える諸問題や地域課題などが役員会の議題として多く取りあげられており、その中で市の各部との連携が必要である場合は、取りまとめ役として関係各部に声掛けを頂きスピーディに調整等が出来る体制になっています。 当校区は人口流入が続いており、それにつれて小学校の大規模問題、朝夕の交通渋滞など避けて通ることが出来ない深刻な課題を抱えています。 今後は今まで以上に市関係各部との連携や情報共有が必要かと思っておりますので、担当次長には仕切り役としての役割を大いに期待するところです。	協働の取組推進担当次長の関わり方についてご評価いただき、ありがとうございます。 引き続き、担当次長と市民協働推進課で連携しながら取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。
12	Q4【その他】	まち協	「対話」の仕組みでも記載しましたが、担当次長の作業工数(負担)が大きいように感じます。 各まち協において考え方や地域性が違うことはさておいても、事務処理能力に差がある場合は出された案件を「対話」という一定レベルに整理して纏める作業を担当次長1人にさせるのは大変と思う。お互い人間なので事務能力が不足している「まち協」を担当するのは「しんどい」でしょうし、その思いは「まち協」側にも伝わると思う。その辺りも考慮して担当次長をフォローする仕組みは何か必要だと思う。	「対話」と「進捗管理」の仕組みにおける担当次長の役割は、取組の実施や課題解決の観点から助言・支援を行うこととしており、「対話」の日程調整、推進シートの受取、対話シート(議事録)の作成等の事務作業は市民協働推進課の地域担当職員が行うこととなっています。
13	Q4【その他】	まち協	担当次長はよくやっていたいている	協働の取組推進担当次長の関わり方についてご評価いただき、ありがとうございます。 引き続き、担当次長と市民協働推進課で連携しながら取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。
14	Q4【その他】	まち協	今後も「対話」や「進捗管理」の仕組みを基本とするのであれば、各まち協に対しても一定の事務処理能力を必須とし、そのあたりを補助金などで差を作っていくことも考えてはどうか。 例えば、「対話」などの事務処理を外部発注した場合の相当額を各まち協の補助金に織り込みし、出来ないまち協はその費用を使って市などで代行する。とか。 私達も私達なりに頑張って「対話」などの事務作業をしていますので、誰か(担当次長とか)がやってくれるのであればお任せする事で別のことも出来るようになります。 「やっているところ」と「出来ないところ」には何らかの差があっても良いと思う。 このアンケートの設問についても少し疑問を感じる。 意見が無ければ書かなくて良いアンケートは「思うところはあるけど、書くのが面倒だからなしにしよう」となりがち。 意見の無い場合でも、意見書くのが面倒なのか、これがベストと思っているのか、何書いても無駄と思っているのか、思うところは違うのではないかな。	「対話」と「進捗管理」の仕組みについては、地域の皆様の事務負担をできるだけ軽減できるよう努めておりますが、特に令和7年度については、まちづくり計画の後期計画の策定にあたって、事務負担が例年以上に増えてしまったと認識しております。 また、仕組みに限らず、まちづくり協議会の活動を行う上で発生する事務負担について、今後も負担の軽減に努めながら、団体構成員に対して支払う謝金のあり方については、引き続き慎重に検討してまいります。 本アンケートのあり方については、今後の参考にさせていただきます。